

欧州の絹業について

蚕糸試験場 絹繊維部長 細 田 一 夫

短時間の視察で欧州の絹業という大きな事柄を見ることは不可能であるが、各国において見聞した範囲内の感想を述べてみたい。

1. ドイツ 化学繊維が多量に生産されていると思つた国ではあつたが、絹生地、絹製品の専門店などで相当量取り扱われている。これらのものはネクタイを除けばプリント物が主である。混紡されたものもある。

2. イギリス 開催国ということも手伝つたのか相当絹製品がショーウインドウに飾られていた。ロンドンという土地柄もあつて高級品が多い。天然繊維が大事にされているようである。

3. フランス 市場にあるものはプリント物が多いが、生産されているものは厚地のものが多く、他繊維との混用しているものもある。

4. スイス 大きな専門店があり、各種の絹製品をとりそろえていたが、プリント物が圧倒的に多く、シャンタンも若干はあるが、いずれも増量率が多い。

5. イタリア 欧州の絹業の中心になりつつあるような感じでコモが最も盛んな所である。工場自体の規模が大きい。また新しい設備をもっている。増量率が非常に大きい。プリントも相当行なわれている。

以上1ヶ月の短時間であつたが、化学繊維の宣伝はわが国のように派手ではなくむしろ天然繊維の宣伝が大に行なわれていた。天然繊維を大切に育てているようで、ここらあたりに欧州の保守的な行き方があるのだろうか。